

先週の主な出来事 (株式市場での反応を○、△、×の順で評価)

| 日付 | 市場の反応 | 国・地域 | 指標など(コメント) |
|----------|-------|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8月21日(月) | △ | ユーロ圏 | 量的金融緩和と縮小の可能性が改めて意識される ドイツ連邦銀行(独中央銀行)は、工業生産や輸出、消費が非常に堅調なことを背景に、今年の同国の経済成長率が従来予想を上回る可能性があるとして月報で指摘した。また、ECB(欧州中央銀行)のドラギ総裁が、週後半に米ジャクソンホールで開かれるシンポジウムで、金融政策の方向性について触れる可能性に米紙が言及したこともあり、欧州での量的金融緩和縮小見通しが改めて意識され、ユーロ買い・ドル売りにつながった。ただし、銀行株などが売られ、欧州株式相場は下落した。なお、北朝鮮情勢を巡る懸念もあり、円相場は1ドル=108円台に上昇した。 |
| | | | 税制改革の取りまとめで前進と報じられる トランプ政権と共和党の議会指導部が、法人税率の引き下げを含む税制改革の取りまとめで大きく前進したと、米政治専門サイトが報じた。税制改革への期待に加え、ハイテク株に押し目買いが入ったこともあり、株式相場が上昇した一方、国債は売られた。また、ZEW(欧州経済センター)が発表した、ドイツの8月の景気指数が、向こう6カ月の見通しを示す期待指数で前月比▲7.5ポイントの10.0と、3ヵ月連続で低下し、2016年10月以来の低い水準となったこともあり、ユーロが売られた一方、ドルが買われた。円相場は109円台に下落した。23日には日本の株式相場も上昇した。 |
| 22日(火) | ○ | 米国 | 8月の総合PMI(購買担当者指数)は4ヵ月ぶりに上昇 8月の総合PMI速報値は前月比+0.1ポイントの55.8と、予想(55.5)に反して4ヵ月ぶりに上昇した。同指数は50が景況感の境目。サービスのPMIは予想を上回る落ち込みとなり、1月以来の水準に低下したが、製造業のPMIが予想に反して2ヵ月ぶりに上昇したことが寄与した。ただし、売上予想を下方修正した英大手広告会社の株式が大きく売られたことなどから、欧州株式相場は下落した。 |
| 23日(水) | × | 米国 | トランプ大統領、国境の壁建設に向け、政府機関閉鎖も辞さない姿勢を示す トランプ大統領が22日夜の演説で、メキシコとの国境の壁の建設予算を計上するためには、米政府機関が閉鎖される事態も辞さないとの姿勢を示した。これを受け、連邦債務上限問題や予算関連の審議が難航するとの見方などから、株式相場が反落した一方、米国やユーロ圏中核国の国債、金先物が買われた。また、7月の新築住宅販売件数が前月比▲9.4%の年率換算57.1万戸と、予想(61.0万戸)を下回り、2016年12月以来の低い水準にとどまったことなどもあり、ドルが売られた。なお、米週間統計で原油在庫の減少が続いたほか、ガソリン在庫も減少したことなどから、原油先物が買われた。24日には、日本の株式相場も反落した。 |
| | | | 中古住宅販売件数は11ヵ月ぶりの低い水準 7月の中古住宅販売件数は前月比▲1.3%の年率換算544万戸と、予想(555万戸)に反して2ヵ月連続の減少となり、2016年8月以来の低水準にとどまった。株式相場は、米政権運営への懸念が続いたことなどから小幅続落となった。 |
| 24日(木) | △ | 米国 | 消費者物価指数(除く生鮮食品)の伸びが加速 7月の消費者物価指数(除く生鮮食品)は前年同月比+0.5%と、予想どおり前月の伸びを0.1ポイント上回った。株式相場は、円高の一服などを受けて買戻しが拡がったことなどから反発した。 |

| | | | |
|--------|---|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 25日(金) | △ | ドイツ | Ifo景気指数は低下も、予想を上回る 8月のIfo景気指数は前月比▲0.1ポイントの115.9と、7ヵ月ぶりに低下したが、予想(115.5)を上回った。これを受けてユーロが買われた。さらに、米FRB(連邦準備制度理事会)のイエレン議長が米ジャクソンホールでの講演で金融政策に言及せず、ユーロ高が一段と進んだことなどから、欧州株式相場は小幅安となった。 |
| | ○ | 米国 | 税制改革法案の年内成立を目指す姿勢が示される ユーンNEC(国家経済会議)委員長は英紙とのインタビューで、トランプ大統領が、税制改革法案の年内成立を目指しており、支持を求めて翌週から遊説に出ると述べたほか、連邦債務上限の引き上げ実現に自信を示した。これを受け、株式相場は小幅ながら反発した。また、イエレンFRB議長に続き、ドラギECB総裁もジャクソンホールでの講演で金融政策に言及しなかったが、最近のユーロ高に対する牽制も行なわなかったことから、ユーロが買われ、対ドルで2015年1月以来の高値をつけた。なお、7月の耐久財受注速報値は、全体が前月比▲6.8%と、3ヵ月ぶりに減少し、予想(▲6.0%)も下回ったが、航空機を除く非国防資本財ベースでは+0.4%と、予想どおりだった。 |

今週の主な注目点 (高:注目度大、中:注目度中、低:ご参考)

| 日付 | 注目度 | 国・地域 | 指標など(コメント) |
|---------|-----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 29日(火) | 中 | 米国 | 8月の消費者信頼感指数 7月は前月比+3.8ポイントの121.1と、4ヵ月ぶりの上昇だった。8月の予想は120.4。 |
| | | | 7月の鉱工業生産速報 6月は前月比+2.2%と、2ヵ月ぶりの上昇だった。7月の予想は▲0.3%。 |
| 31日(木) | 中 | 日本 | 8月のPMI(購買担当者指数) 7月は、製造業が前月比▲0.3ポイントの51.4、非製造業も▲0.4ポイントの54.5と、ともに3ヵ月ぶりの低下だった。同指数は50が景況感の境目。8月の製造業の予想は51.3。(非製造業の予想は未着) |
| | 高 | 中国 | 8月の消費者物価指数速報 7月は、全体が前年同月比+1.3%、食品やエネルギーなどを除くコアベースでは+1.2%だった。8月の予想はそれぞれ、+1.4%、+1.2%。 |
| | 高 | ユーロ圏 | 7月の個人所得・消費支出 6月は、個人所得が前月比横ばい、個人消費支出は+0.1%だった。7月はそれぞれ、+0.3%、+0.4%と予想されている。 |
| | 高 | 米国 | 8月の雇用統計 7月は、非農業部門雇用者数が前月比+20.9万人、失業率は▲0.1ポイントの4.3%だった。8月の予想はそれぞれ、+18.0万人、4.3%となっている。 |
| 9月1日(金) | 高 | 米国 | 8月のISM(供給管理協会)製造業景況指数 7月は前月比▲1.5ポイントの56.3だった。同指数は50が好不況の境目。8月の予想は56.5となっている。 |
| | 高 | ブラジル | 4-6月期のGDP 1-3月期は前期比+1.0%と、2014年10-12月期以来のプラス成長だった。4-6月期の予想は+0.1%となっている。 |

上記のほか、日本では9月1日に4-6月期の法人企業統計が発表される。
(信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

■当資料は、日興アセットマネジメントが世界の経済、金融・資本市場についてお伝えすることなどを目的として作成した資料であり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、当資料に掲載する見解は、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

日興アセットマネジメント
facebook twitter で、
経済、投資の最新情報をお届けしています。